

2016年度学院留学 研究成果概要

種 別：学院留学（短期）

所属・職・氏名：総合政策学部 准教授 小西尚実

研究課題：「開発途上国の人的資源開発の動向と課題に関する研究～高等教育・職業技術教育を中心として」

留学期間：2016年10月30日～2017年3月28日

留学先：フランス・パリ、研究機関：国連 UNESCO（国際連合教育科学文化機関）本部

「開発途上国の人的資源開発の動向と課題に関する研究～高等教育・職業技術教育を中心として」という研究課題のもとで、2016年10月末から2017年3月末まで、フランス・パリにある国連 UNESCO（国際連合教育科学文化機関）本部を研究の拠点とした。

国連 UNESCO・TVET の取り組み

留学先の国連 UNESCO(パリ本部)の受け入れ先は、TVET(Technical and Vocational Education and Training; 技術職業教育訓練課)である。国家の成長のためには、国内に優れた人材を確保する必要があり、そのような人材をどのように育成していくのか、それは開発途上国にとっても重要な開発課題の一つである。急激な社会・経済発展にともなう開発途上国の人材育成のニーズに適合させるために、TVET は高等教育や職業技術教育など、より高度な学習や技能の習得を実現する確立した TVET システムと国の人材開発政策の関連性を強化することで各国政府を支援している。

国際労働機関 (ILO) 出版部門のデータによると、2015年には7,340万人の青年が失業中であると推定されており（青年失業率 13.1 パーセント）、2017年には大部分の地域でさらに増加すると予想されている。その増加の主な理由は、労働者が提供するスキルと雇用主が求めるスキルのミスマッチである。仕事の世界に近づくには、青年が適切なスキルを身につけている必要がある。UNESCO 加盟国は、職業スキル、知識と態度、および欠くことのできない雇用適格能力についての重要性を認識し、TVET を UNESCO が受け持つ活動範囲の中で最優先事項であることを確認して、40年以上もの間 TVET 分野での支援を続けてきた。

SDGs への取り組みと包括的な TVET システムの構築

国際社会は、貧困のあらゆる形と側面を根絶することを確認して、実現するため統合的アプローチである持続可能な発展に向けた「2030 アジェンダ」に合意した。2030 アジェンダを達成するにあたり、教育と技術訓練は中核となる要素である。インチョン宣言の「ビ

ジョン：教育 2030」ⁱ は、「包括的、公平で良質な教育を確保し、すべての人に生涯学習の機会を促進する」ことをスローガンとして、持続可能な開発目標 4（Sustainable Development Goal 4）の中に織り込まれている。この目標 4 の教育分野では、特に、雇用、ディーセント・ワークおよび企業化精神に向けた技術・職業スキルの取得；ジェンダー格差解消および弱者の参加する権利を擁護することを力点として技術・職業スキル開発に費やしている。UNESCO の「技術・職業教育とトレーニング」（TVET）（2016 年-2021 年）ⁱⁱ に関する新たな戦略は、青年の雇用、公平の促進、男女共同参画、グリーン経済と持続可能社会への移行を最優先課題と捉え、開発途上国への支援を強化することが明記されている。

研究課題の発展

以上の背景を踏まえ、本研究では、開発途上国における高等教育および職業技術教育を中心とした人的資源開発政策の動向を調査し、持続的な人材開発・育成政策の実現に向けての取り組みや政策課題を明らかにすることを目的に研究活動を行った。特に、UNESCO の長年培ってきた TVET 分野の経験やリソースを最大限に活用し、留学者も UNESCO の TVET チームメンバーとして、最新の UNESCO のプログラムやディスカッションに加わることができたことは大変貴重な機会であった。TVET が実施する能力開発プログラムの計画や実施にも関わる機会が得られ、各種会議やセミナーなどにも出席することで、開発途上国の TVET の政策や取り組みに関する最新の手法や動向を把握することができた。

UNESCO・TVET チームへの貢献

また、開発課題として途上国における TVET のニーズが高まる中で、UNESCO は予算や人材が不足する問題に直面している。特に、TVET の取り組みの骨幹となるガイドラインが 10 年以上も改訂されておらず、2017 年度 UNESCO・TVET チームの主要なワークプログラムの一つであるガイドラインの改定に関して、留学者が UNESCO におけるフォーカル・パーソンの役割を果たし、ガイドラインの改定作業の指揮をとり、バックグラウンドペーパーを作成した。ⁱⁱⁱ この成果により、今後 TVET の分野で、国を越えた国際的、包括的なアプローチが可能となり、さらなる発展が見込まれる。また、留学者は、前職で主にアジア地域で国際公務員として国際協力活動に従事していた経験があり、さらに近年特にアジア地域における高等教育や職業教育の調査研究を行っていた成果を、UNESCO の開発課題と結びつけ、UNESCO 内で発表と意見交換会を実施し知見を共有した。UNESCO の TVET チームには、アジア地域の専門家が少ないため、経済発展が著しいアジア諸国の経験を新たにチームにインプットとし、チームに貢献したといえよう。

貴重な体験と今後の研究に向けて

以上のような、半年間の国連 UNESCO 教育セクター TVET チームでの研究活動は、プロジェクトチームのメンバーとしてオフィススペースやコンピューター環境および、国連 UNESCO 内

の資料室へのアクセス、および本部内で開催される様々な国際会議やセミナー、研修プログラムへの参加など、提供いただいた環境は素晴らしいものであり、大変有意義な在外研究を行うことができた。UNESCO には、部外者が入手困難な資料やデータが蓄積されており、TVET チームメンバーとして所属したことは、本研究課題の進展と、また留学中に構築した国連職員や専門家とのネットワークは、今後この研究課題の更なる発展のために大変有益であることを申し述べたい。留学中に入手したデータや資料は現在整理中であり、本研究の成果を 2017 年度中に学会誌に論文として投稿する予定をしている。また、学部内外の多くの機会に、留学中の経験や研究の成果を共有したいと考えている。

以上、多義にわたって様々な成果を得ることができた。このような恵まれた機会を与えられ、支援くださった学院関係者の皆様に心から感謝を申し上げたい。留学中の研究をさらに発展させ、その成果を学院の教育と研究活動に貢献することでこれに応えていきたいと考える。

ⁱ UNESCO, “*Education 2030: Incheon Declaration and Framework for Action for the implementation of Sustainable Development Goal 4*”

ⁱⁱ UNESCO, “*Strategy for Technical and Vocational Education and Training (TVET) (2016-2021)*”

ⁱⁱⁱ Konishi, N. “*Background Paper for Revising TVET Guidelines*”, March 2017, UNESCO